

# 2020 年度入試状況分析【国公立大】

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

## ◎志願状況全体概況

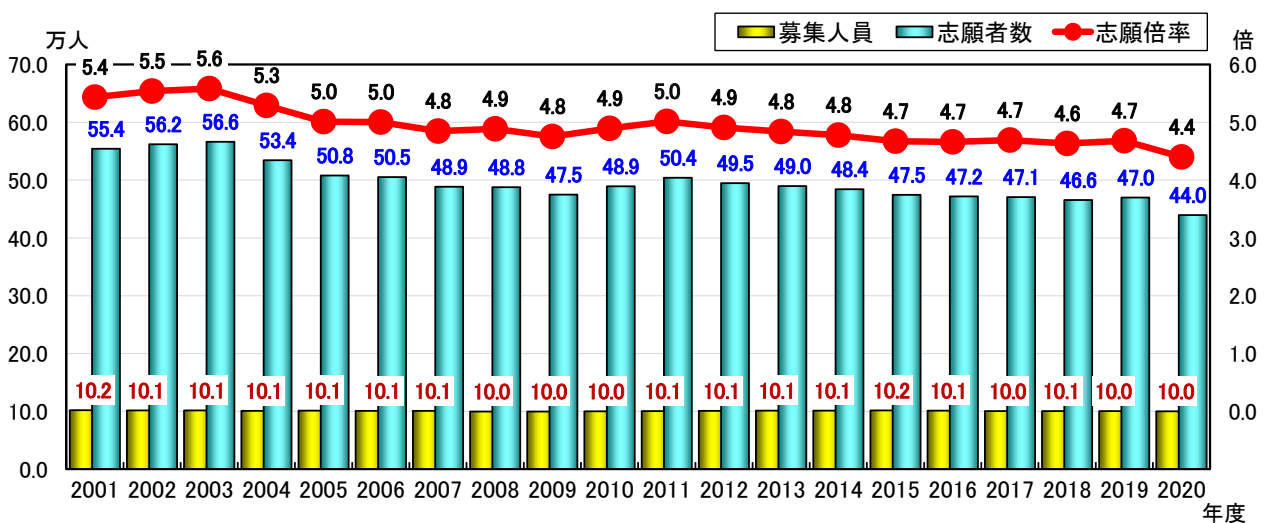
### □一般選抜志願者数は再び減少へ

〔設置・日程別志願状況〕

設置	日程	2020年度					2019年度		
		募集人員	志願者数	志願倍率	増減数	指数	募集人員	志願者数	志願倍率
国立	前期	63,828	182,772	2.86	-11,753	94	64,031	194,525	3.04
	後期	14,168	124,420	8.78	-11,208	92	14,335	135,628	9.46
	合計	77,996	307,192	3.94	-22,961	93	78,366	330,153	4.21
公立	前期	16,223	60,280	3.72	-3,730	94	16,102	64,010	3.98
	後期	3,572	40,667	11.38	-3,319	92	3,648	43,986	12.06
	中期	2,355	31,426	13.34	-261	99	2,310	31,687	13.72
	独自	363	3,501	9.64	-221	94	300	3,722	12.41
	合計	22,513	135,874	6.04	-7,531	95	22,360	143,405	6.41
合計	前期	80,051	243,052	3.04	-15,483	94	80,133	258,535	3.23
	後期	17,740	165,087	9.31	-14,527	92	17,983	179,614	9.99
	中期	2,355	31,426	13.34	-261	99	2,310	31,687	13.72
	独自	363	3,501	9.64	-221	94	300	3,722	12.41
	合計	100,509	443,066	4.41	-30,492	94	100,726	473,558	4.70

文部科学省が2月20日に発表した2020年度国公立大一般選抜の確定志願状況、及び独自日程の国際教養大、新潟県立大の2大学発表の確定志願者数を合計すると、志願者数は443,066人で、前年度と比べて30,492人(94)の減少でした。前年度は2011年度以来8年ぶりに増加しましたが、再び減少に転じ、志願者数は45万人を下回る結果となりました。募集人員も国公立大全体で217人減少しましたが、志願倍率は4.70倍→4.41倍と0.29ポイントダウンし、4.5倍を下回りました。このように、当初は2021年度入試からの導入が予定されていた大きな入試改革への不安とセンター試験の平均点ダウンの影響を色強く反映した出願動向となったことが特徴です。

〔志願者数推移〕（独自日程除く）



### □国立大は9年連続減少、公立大は5年ぶりに減少

〔設置別〕

国立大……前期は11,753人(94)、後期は11,208人(92)といずれも減少しました。この結果、国立大全体では22,961人(93)の減少で、9年連続減少となりました。

公立大……中期が261人(99)の微減でしたが、後期3,319人(92)、前期3,730人(94)、独自221人(94)といず

## 2020 年度入試状況分析【国公立大】

れもはっきりと減少しました。公立大全体では7,531人(95)の減少で、5年ぶりの減少となりました。センター試験の平均点ダウンは、公立大志願者にも影響したことがわかります。なお、千歳科学技術大が2019年4月から公立大へ移管しましたが、その志願者数は前期が209人、中期は575人の計784人に留まりました。

### 【日程別】

前期……………募集人員は前年度並ですが、志願者数は15,483人(94)減少したため、志願倍率は3.23倍→3.04倍と0.19ポイントダウンしました。

後期……………志願者数は14,527人(92)の減少で、後期廃止の大学もあり、募集人員は243人(99)減少しましたが、志願倍率は9.99倍→9.31倍と0.68ポイントダウンしました。募集人員が少ないことから、センター試験での目標ラインが前期に比べて高くなるため、センター試験の平均点ダウンで後期への出願を断念した受験生が多くなりました。